



イギリスより専門家が来日！

2025 年

9月15日 (月・祝)

13:00-16:30

大阪市立自然史博物館

国際シンポジウム

大阪湾岸「いのち輝く」を未来へ

～はじめよう！連携が生み出す豊かな生物多様性～

40 年以上前に市民運動から生まれた先駆的な人工干潟・大阪市 南港野鳥園 2025.7.25 撮影



ヘラシギ

基調講演

「沿岸域のネイチャーポジティブとは」

道家 哲平 (国際自然保護連合日本委員会会長)

特別講演

「渡り性水鳥の危機的状況と大阪湾の重要性」

ニコラ・クロックフォード (英国王立鳥類保護協会主任役員・シギチドリ研究員)

「沿岸生息地再生に関する国際的な事例研究から大阪湾を考える」

ジェフ・キュー (英国王立鳥類自然保護協会・湿地再興アドバイザー)

パネルディスカッション

「大阪湾岸の生物多様性を高めるために」

パネリスト：講演講師3名・納家 仁 (日本野鳥の会大阪支部長) ほか

ファシリテーター：佐久間 大輔 (自然史博物館)

*敬称略

日時

9月15日 (月・祝)
13:00-16:30 (開場 12:30)

会場

大阪市立自然史博物館 講堂
06-6697-6221 (担当：佐久間)
monitor@omnh.jp

アクセス

大阪 Metro 御堂筋線 [長居] 下車
徒歩 800m

申し込み

不要 (定員 170 名)

参加費

無料 (博物館入館料必要)

言語

日本語・英語 (通訳あり)

※ ライブ・アーカイブ配信
YouTube@大阪市立自然史博物館



問い合わせ

シンポジウム開催事務局
npsympo2025@nature.or.jp



おおさか生物多様性

共催：国際自然保護連合日本委員会、(公財) 日本野鳥の会、(公財) 日本自然保護協会、
(公財) 世界自然保護基金 (WWF) ジャパン、(公社) 大阪自然環境保全協会、
日本野鳥の会大阪支部、大阪市立自然史博物館

後援：日本景観生態学会、応用生態工学会、自然環境復元学会、日本緑化工学会、日本生態学会、環境社会学会、
環境科学会、環境アセスメント学会、
関西自然保護機構、
鳥類保護連盟「コアジサシ研究センター」

このイベントは 2025 年度環境再生保全機構地球環境基金の
助成を受けています。助成名「SDGs万博市民アクション」



国際シンポジウム

大阪湾岸「いのち輝く」を未来へ

～はじめよう！連携が生み出す 豊かな生物多様性～

開催趣旨

現在、海洋と沿岸域は気候変動、開発、環境汚染など複合的な要因により危機的な状況に直面しています。生物多様性の損失や生態系サービスの劣化は、沿岸に暮らす私たちの暮らしや経済にも直結する深刻な問題です。

こうした課題に対して、自然の損失を止め、回復へと転じる「ネイチャーポジティブ」の視点は、これからの社会設計において不可欠な目標となっています。4月から開催中の2025大阪・関西万博でも、「いのち輝く未来社会のデザイン」がテーマに掲げられ、自然との関係を見つめ直す契機でもあります。

本シンポジウムでは、藻場から湿地まで続く美しく豊かな沿岸の姿と、そこに生きる渡り鳥などによる豊かな生物多様性を保全・回復していくことを目的に、英国王立鳥類保護協会(RSPB)から専門家を招聘し、国・地方自治体・企業・市民などの関係団体が一堂に会し、大阪湾岸におけるネイチャーポジティブについて議論を深め、自然とともに生きる未来社会のデザインを考えます。

講師紹介と演題について



どうけ てっぺい
道家 哲平
(国際自然保護連合
日本委員会会長)

「沿岸域の
ネイチャーポジティブとは」

2003年より日本自然保護協会(NACS-J)に所属。
NACS-Jが事務局を務めるIUCN(国際自然保護連合)日本委員会にて、IUCNや生物多様性条約に関係する国際会議に出席するほか、海外NGOと国際的な情報収集・分析を行い、日本の生物多様性保全の底上げに取り組んでいる

ニコラ・クロックフォード

(RSPB 主任役員・シギチドリ研究員)

「渡り性水鳥の危機的状況と大阪湾岸の重要性」

2024年11月、南港野鳥園を訪問した折、大阪湾のシギチドリ渡来環境の危機的状況を知り、レポートをまとめ、共同宣言団体※と共に大阪府市へ意見書を提出



ジェフ・キュー

(RSPB 湿地再興アドバイザー)

「沿岸生息地再生に関する
国際的な事例研究から大阪湾を考える」

2025年4月、2日間にわたり大阪湾岸の環境を視察。
その結果を含め、湿地環境の再興の可能性を探る



英国王立鳥類保護協会(RSPB)とは

Royal Society for the Protection of Birds 120万人の会員を擁するヨーロッパ最大の自然保護団体。RSPBが英国内に所有する222カ所の自然保護区(159,000ヘクタール)のうち、84カ所が沿岸部に位置し、その面積は41,000ヘクタールを超える。



東アジア・オーストラリア・フライウェイ(EAAFP)とは

最大規模のフライウェイのひとつで、ロシア極東やアラスカから、東アジアと東南アジアを経て、オーストラリアやニュージーランドまで22カ国に及ぶ水鳥の渡りのルート。大阪湾は重要な中継地のひとつである。近畿では琵琶湖と南港野鳥園が重要登録地。

共催団体について

大阪、日本全国、そして世界の自然や生物多様性を保全するために、それぞれの立場や分野で活動している団体が、日本でのネイチャーポジティブ実現に向けて連携しています。これまでも大阪市立自然史博物館で開催された「大阪自然史フェスティバル」などでシンポジウムを開催し、議論を重ねてきました。2024年には「大阪湾岸に生物多様性豊かな干潟や湿地を取り戻すための共同宣言」を採択発表しています。



共同宣言解説動画